

PARARIA体験記 pdf

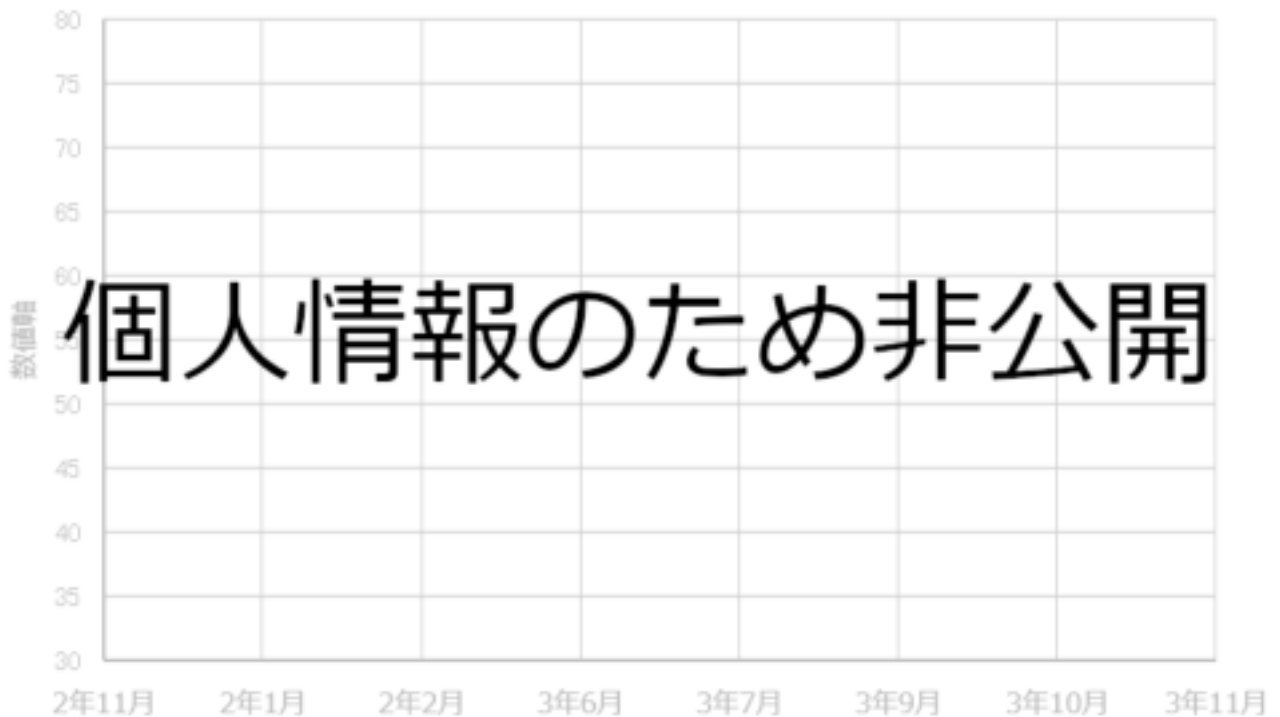


大宮開成高等学校 H.Tさん

目次	
1. 基本情報	1-1 高校 (p3) 1-2 性別 (p3) 1-3 文理選択 (p3) 1-4 希望進路 (p3) 1-5 進学先 (p3) 1-6 模試の成績推移 (p3)
2. PARARIA 入会前の学習状況	2-1 生活習慣 (p4) 2-2 勉強時間 (p4) 2-3 モチベーション (p4) 2-4 家での過ごし方 (p4) 2-5 友達との付き合い (p4) 2-6 1日のスケジュール (p4~5)
3. PARARIA 入会後の学習状況	3-1 生活習慣 (p6) 3-2 勉強時間 (p6) 3-3 モチベーション (p6) 3-4 家での過ごし方 (p6) 3-5 友達との付き合い (p6) 3-6 1日のスケジュール (p6~7)
4. 各科目の各勉強法の推移	4-1 英語 (p8~9) 4-2 国語 (p10~11) 4-3 世界史 (p12~13)
5. 志望校に関する意識の推移	5-1 軌跡 (p14)
6. 家族とのやり取り	6-1 接し方 (p14) 6-2 もらったサポート (p14) 6-3 もらいたかったサポート (p14)

1. 基本情報	
1-1 高校	大宮開成高校
1-2 性別	女
1-3 文理選択	文系
1-4 希望進路	筑波大学人間学類心理学科
1-5 最終進路	首都大学東京人文社会学部人間社会学科
1-6 模試の成績推移	以下にグラフを示す。

成績の推移



2. PARARIA 入会前の学習状況	
2-1 生活習慣	<p>高校1年生の時は、普段は宿題だけをやってそれ以外の勉強はほとんどせず、定期試験の2週間ほど前から、焦って今までの復習をしていた。定期試験はいつも上位のほうだった。高校二年生の夏ごろから受験を意識し始めたが、家ではまったく勉強がはかどらないので、夏休みは2、3日に1日ほど図書館で朝から夜までべんきょうした。高校二年の冬休み明けごろから、放課後に学校の自習室で自主学習を進めていた。勉強は嫌いだったが、第一志望の筑波大学に合格したいと思っていた。塾探しをはじめ、みんなが通う大人数の予備校よりも個別の、自主学習をしっかりサポートしてくれそうで、自分に合った塾を探していた。</p>
2-2 勉強時間	<p>平日：1時間 休日：3時間</p>
2-3 モチベーション	<p>高校1年生の時は生物の先生の話聞くのが好きで、放課後はよく話を聞きに行っていた。その先生の影響もあり、生物をもっと知りたいと思い、また、脳科学や発達心理学に興味を持ち、神戸大学や旧帝大の名古屋大学を目指し始めた。しかし、文理選択の時、生物受験できる大学が少ないこと、脳科学よりも心理学がやりたいこと、担任の先生に文系脳だといわれたことから文系で受験を決めた。英語も国語も苦手だったので勉強が苦痛になり、モチベーションが下がった。世界史は割と好きだったのでコツコツ頑張った。</p>
2-4 家での過ごし方	<p>テレビが好きだったので、暇があればひたすら見ていた。</p>
2-5 友達との付き合い	<p>放課後に教室で話したり、どこか寄り道したりしていた。</p>
2-6 1日のスケジュール 平日	<p>6時に起きて朝食などを済ませて7時頃家を出発。電車では再テスト回避のために小テストの勉強をした。放課後は友達や先生と話したり、寄り道をしたりと楽しく過ごしていた。家に帰り、ご飯を食べ、テレビを見た後に急いで宿題を済ませ、時間があれば小テストの勉強をした。夜は23時半には寝ていた。</p>
休日	<p>8時くらいに起き、午前中はだらだらテレビを見たり、YouTubeを見たりし、お昼過ぎに昼寝をした後、勉強をしていた。まただらだら過ごし、気が向けば寝る前に小テストの勉強をして23時半には寝ていた。</p> <p>たまに休日は友達と遊んだり、定期テスト前だと1日中図書館にいたりした。</p>
	<p>次ページに具体的なスケジュールを示す。</p>

1日のスケジュール		
時間	平日	休日
0:00	睡眠	睡眠
1:00		
2:00		
3:00		
4:00		
5:00		
6:00	朝食、準備	
7:00	登校(小テスト勉強)	
8:00	授業	
9:00		朝食
10:00		テレビ
11:00		
12:00		
13:00	昼食	昼食
14:00	授業	昼寝
15:00		勉強
16:00	HR、掃除	
17:00	部活、質問、友達と話す	自由時間
18:00		
19:00	下校	夕食、風呂
20:00	夕食、風呂	テレビ
21:00	自由時間	
22:00	宿題	小テスト勉強
23:00	睡眠	睡眠

3. PARARIA 入会後の学習状況	
3-1 生活習慣	入塾したのが4月頃。勉強時間は確実に増えたが睡眠時間が一時間減ったことで授業中に眠くなるようになることが多くなり、イライラした。
3-2 勉強時間	平日：4～5時間 休日：9～11時間
3-3 モチベーション	勉強時間が格段に増えたので、それだけで安心感が生まれ、気持ちにゆとりができた。入塾時に志望校について話したり、目標を明確化したので、志望校への気持ちが強くなり、モチベーションが上がった。
3-4 家での過ごし方	一緒に過ごす時間が減った。勉強時間が増えたり、模試の成績が上がったりすると、体調を気遣われるようになった。
3-5 友達との付き合い	以前とほぼ変わらなかったが、遊ぶ機会が減った。
3-6 1日のスケジュール 平日	朝は5時半に起き、6時半の電車に乗り登校。授業前に自習室で40分ほどその日の予習をした。学校が17時くらいに終わりパラリアに18時くらいにつき、それから22時まで勉強。24時に就寝。
休日	朝7時頃起きて準備して8時半頃出発。 9時頃塾に着き勉強する。 22時頃に勉強を切り上げ帰宅。 22時半頃家に着き夕食や風呂を済ませ24時頃就寝。
	次ページに具体的なスケジュールを示す。

1日のスケジュール		
時間	平日	休日
0:00	睡眠	睡眠
1:00		
2:00		
3:00		
4:00		
5:00	朝食	
6:00	登校	
7:00	自習室	朝食
8:00	授業	移動
9:00		パラリア
10:00		
11:00		
12:00		昼食
13:00	昼食	
14:00	授業	
15:00		
16:00		
17:00		
18:00	パラリア、夕食	夕食
19:00		
20:00		
21:00		
22:00	帰宅	帰宅
23:00	風呂、自由時間	風呂、自由時間

4. 各科目の勉強法の推移

4-1 英語	
単語	"ターゲット1900"1. 2年で、主に学校の小テスト勉強に使用した。毎週1, 2回ほど小テストがあり、1500までは全部合わせると8周くらいした。3年になってからはほとんど使用していない。パラリアに入ってから勧められたリンダメタリカを使い始めた。まず、単語にざっと目を通し、その次のページに載っている単語が入った長文を読んだ。リンダメタリカは入試直前まで、気分転換に興味のある分野を読んだりして活用していた。3周くらいしたが、全部の単語を覚える気はなかった。
文法	"UP GRADE"2. 3年で主に学校の小テスト勉強に使用した。問題を解き間違えた箇所の解説を読んだ。5周くらいした。問題の答えを覚えてしまうほどになったのでやるのをやめた。ほかの参考書に移行しようかとも考えたが、センターの第二問が40点くらいは安定してとれるようになっていたので、長文や発音などほかの対策に移った。
長文	夏前までは、学校の教科書とリンダメタリカを2周ほどした。夏休みは赤本をやり、入試形態に慣れた。秋ごろになるとには赤本と並行して精読を目的にディスコースマーカーをやった。あまり意識していなかった、パラグラフ全体の意味を意識するようになった。12月に入るとセンターの過去問を本格的に解き始めた。赤本は時間を厳しめに区切り、間違えた問題は単語がわからなくて間違えたのか、文脈を読み間違えて間違えたのか、など間違えた理由をはっきりさせた後で、単語が理由なら単語の暗記、文脈の読み間違いならパラグラフごとにもう一度パラグラフのまとめを書きなおしたりした。
反省	リスニング対策を後回しにしたことで、リスニングが足をひっぱった。学校や塾の行き帰りなどの空き時間にこまめに英語を聞くべきだった。
	次ページに具体的なスケジュールを示す。

英語の月間参考書の推移			
月	単語	文法	長文
2	ターゲット1900	UP GREAD	change the world 2
3			
4			change the world 3
5			リンダメタリカ
6	リンダメタリカ		NEO 現代を探る
7			
8			赤本
9			
10			ディスコースマーカー
11			赤本
12			センター過去問、赤本
1			
2			赤本

4. 各科目の勉強法の推移

4-2 国語

1年から週一の小テストで完成古文単語 321 をやっていた。5周くらいはしていたが、例文ごと出るので例文でおぼえていたため、ほかの文章中で出てきたときにわからないことが多く、定着していなかった。2年の1月くらいに任意で得点奪取という記述式のテキストの添削を学校の先生がやってくれていたのを頼んだ。しかし2月には筑波大学の二次試験を世界史で受けることにして、国語を使わないことを決め、国語は嫌いだったので、3回くらい添削を受けあとで添削に出すのをやめた。3年の夏くらいまではとくになにもやらず、授業でセンターの過去問を解いたり、私大の過去問をといたりしていた。7月くらいにZ会の速読古文常識をざっと読んだ。古代の官位について、服装、恋愛についての常識など、知っておいて損はなかった。夏休みは3日に1回くらい私大の過去問とセンターの追試の過去問をやった。解いた時に答えを出した根拠を確認しておくくらいしかしていなかった。解き直しの仕方は最後まで定まらなかった。私大の古文の過去問は学校の先生から大量に貰っていたので、平日一題ずつ、朝行きの電車 25 分でやっていた。わからない単語にマーカーをし、単語の暗記ノートに書き写した。分からないことがあったら担任の先生が古文の先生だったのでその日のうちに質問した。9月には国語はそれ以外ほとんど何もやっていなかった。10月には日々古文単語帳 365 を勧められたのでやり始めた。この単語帳はただ単語が書いてあるだけでなく、有名な古文からとってきた練習問題があるので、インプットしたものを即アウトプットできたのでとてもよかった。センター前までに4周した。11月になると3日に1回くらい私大の過去問をやった。解き直しの仕方がわからず、やる意味が分からなくなることもあったが、形式になれるためにしっかり制限時間を設けてやった。12月から1月はセンターの過去問を解き始めた。根拠をもって答えを出すようにしていた。センターがおわると私大の過去問を解いた。また、首都大の受験きめ、国語を二次で使うことになったので、学校の先生に添削を頼んだ。全く国語の記述対策をしておらず、首都大の国語は小論文もあったのですごくあせった。学校の先生が付きっきりで対策をしてくれ、特に古文は10年分以上解き、全て添削してもらった。小論文は6年分、評論の記述は8年分くらいやった。古文の記述で気をつけていたことは当たり前のことだけど、主語述語目的語を忘れないことだった。また、2年の二学期から貯めていた自分で作った古文単語ノートと文法を書いたテクニック集は国公立受験の時まで重宝した。

次ページに具体的なスケジュールを示す。

国語の月間参考書の推移	
月	
2	完成古文単語 321、得点奪取
3	
4	
5	
6	
7	速読古文常識
8	センター追試過去問
9	
10	日々古文単語 365
11	私大過去問
12	センター過去問
1	私大過去問、国公立過去問
2	

4. 各科目の勉強法の推移

4-3 世界史	<p>高校2年生の1学期は、定期試験の前にそれまでに習ったことを詰め込んで定期試験に臨んでいた。2学期になると模試に世界史が入ってきたので本格的に受験を見据えた勉強を始めた。模試前には模試の範囲のプリントを赤シートで隠して見るのを何周かして模試にのぞんだ。模試の偏差値は三科目の中では一番よく、一番やる気のある教科だった。3年の初めのほうまでは成績は安定してよかった。学校の先生からもらったプリントを何周もしていた。PARARIAに入ってから、「1枚何分」と時間制限をもって勉強をするようになった。7月くらいまでは世界史は得意だと思っていたが、成績が伸び悩み、得意だと自信を待って言えなくなった。それからは世界史図説タペストリーを読んで歴史の背景を理解したり、地図で都市や国の位置を覚えた。また、用語集を使って、単語だけを見てその単語を説明できるかなど、いままでのプリントだけの勉強から変えた。夏休みになると、第一志望だった筑波大学の論述対策を始めた。筑波大学は論述400字が4題だったので、論述対策を徹底して始めた。最初は、筑波大学の赤本を初めたが、全く歯が立たず、Z会の論述対策のテキストを買い、それを進めた。また、これと並行して、世界史の教科書を読みはじめた。9月は教科書を読むのと論述対策をやった。教科書を一から読みはじめ、知らなかったことを忘れていたことにマーカーを引いた。また、論述問題を解き、知らなかったことや忘れていた内容をプリントで確認し、教科書にマーカーを引いた。10月からは私立対策のために、私大の赤本を解き始めた。間違った問題の分野のプリントをみなおし、ノートにまとめた。模試前には、そのノートを見返した。11月は私大の赤本と論述を並行して行った。また、センターの時代別の練習問題をコツコツ解いていった。12月の半ばになるとセンターの過去問を始めた。間違えた問題をノートにためていき、ある程度たまとノートに書いてあることの中で覚えたものとまだ覚えてないものに分け、何回か見ても覚えられないものをべつのノートに書き写してわからないものを減らしていった。センター3日前くらいからルーズリーフ裏表1枚に今までに覚えられなかった内容をまとめはじめ、当日の電車でその1枚を完璧にした。センター後は私大の過去問を解きまくった。いろいろな問題に触れ、苦手な単元はもう一度教科書やプリントや間違えを書き写したノートを見て、苦手をつぶした。また、1月の終わりからは私大の赤本を解き始めた。</p>
	次ページに具体的なスケジュールを示す。

世界史の月間参考書の推移	
月	
2	プリント
3	
4	
5	プリント、タペストリー、教科書
6	
7	
8	論述問題集、教科書、GMARCHの世界史
9	
10	私大赤本
11	論述対策、教科書
12	教科書、センター対策
1	赤本
2	

5. 志望校に関する意識の推移	
5-1 軌跡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校 1 年生 神戸大学、名古屋大学 心理学や脳科学系 ・ 高校 2 年生（夏） 筑波大学のオープンキャンパスで模擬講義を受け、とても面白く、ここで心理学を学びたいと思った。また、障害科学にも興味を持った。 ・ 高校 2 年生（冬） 変わらず筑波大学 ・ 高校 3 年生 変わらず筑波大学。センター少し失敗の時は首都大学東京。首都大も無理そうなら東京学芸大学。センターが終わり、筑波大学人間学群心理学科はあきらめ、筑波大学人間学群障害科学学科と首都大学東京の人文社会学部人間社会学科で迷う。やっぱり心理がやりたいこと、論述がとても苦手、合格確率が高いことを考え、首都大に傾き、実際首都大のキャンパスを見学に行った。そこでキャンパスの雰囲気を入り込んで、首都大の受験を決める。

6. 家族とのやり取り	
6-1 接し方	夜帰っても入浴を済ませると疲れてすぐに寝てしまっていたため、ほとんど会話はなかった。あまり受験勉強について関与されたくなかったのもちょうどよかった。
6-2 もらったサポート	コンビニのご飯は体に悪いと、体調を気遣って、夜ごはんもお弁当を作って入れた。
6-3 もらいたかったサポート	もらいたいサポートはすべてもらっていた。